

福岡倉庫株式会社 総務部 総務人事課

## 総務

ドイツ語学科 2007 卒業 塩田由子さん(勤務 8 年目)

取材・編集：長谷川実穂 (LG130942)

黒田あゆみ (LG130929)

2007 年 3 月にドイツ語学科をご卒業されて 8 年間、福岡倉庫株式会社に勤務されている塩田由子さんにお話を伺ってきました。取材場所は敷地面積 16,975 m<sup>2</sup>をもち医薬品・医療機器を取り扱う倉庫部古賀営業所という営業所です

### どんな仕事

福岡倉庫株式会社は総合的に物流に関わる企業で、倉庫部・陸運部・梱包輸送部という 3 つの部門に分かれています。

倉庫部は、福岡倉庫が保有している倉庫内において、お客様が作られたお荷物をお預かりして、お客様のオーダーに従って必要な時に必要な分だけ目的の場所に配送するというお仕事です。皆さんが知っている有名大手企業の荷物も取り扱っています。

陸運部は、輸送手配業務を行っています。お客様から荷物を配達してほしいとオーダーを頂いたとき、その荷物のベストな輸送方法をコーディネートするお仕事です。

梱包輸送部は、個人ではなく企業のお客様が対象で、人事の方から社員の引越し依頼を頂いたときに、日本から海外へ引越しの手配する海外引越しを主軸に行っています。

福岡倉庫株式会社には、これら 3 つの部門に、総務部・営業本部を加えた計 5 部門がある他、海外には海外現地法人が 3 拠点あります。

### 一日の仕事風景

塩田さんの会社では、8 時 30 分から 9 時までの掃除が当番で行われているため、日によって業務開始時刻は変わりますが、掃除が終わり次第、9 時から 9 時 30 分までセクション（部署）内で行われるミーティングに参加します。9 時 30 分にはパートの方が出勤するため、ミーティングが終わったら塩田さんは 10 時までパートの方とその日の業務を確認します。12 時までは社員からの問い合わせに応じてメール等での返信を行い、休憩を挟んで、

13時から15時30分までは報告書や調査資料等を作成。その後、パートの方との次の出勤日の業務について確認し、会議日には16時から17時まで会議室のセッティング等の準備を行います。17時から17時30分まで翌日以降の業務スケジュールを確認し、最後に書類等の整理整頓を行うことで、18時に塩田さんの一日の仕事が終わります。

## 塩田さんの役割

塩田さんは、企業説明会等で学生に対して福岡倉庫の説明を行うなど、採用関係のお仕事をしています。また、社内では2013年に社会保険労務士の資格を取得し、社員に対する社会保険の手続きやお給料の全般的な労務管理を行い、さらに、役員のスケジュール管理やゴルフコンペを主催する時の運営等も塩田さんの重要な役割です。

## 仕事をしていて楽しいこと

人事に関する仕事では、新入社員を採用するために学生と接する機会があっても、会社の顧客と直接的に接することがほとんどありません。ですが塩田さんは、顧客のために物流の最前線で活躍する社員が日々快適に働くことができるよう裏方で彼らを支えることに喜びを覚え、「社員を支え顧客へのサービスにつなげたい」との思いを持ち仕事をしているそうです。

## 仕事をしていて大変なこと

社員にかかわる仕事である以上、社員に何か前例のないようなことがあった時、その人にとって最適な対応を考えなければいけないことがこの仕事の大変ではあるが非常にやりがいを感じるところだと塩田さんはいいます。

## 仕事で心がけていること

「今自分がしている仕事から得られた知識・経験は、自分だけではなく会社全体の財産だと思って日々業務に取り組んでいます」と話す塩田さん。仕事とは、自分一人で解決するのではなく、周りと一緒に力を合わせて取り組みそれを皆で共有していくことが大事だと塩田さんは考えているそうです。

## この仕事を選んだ理由

塩田さんの場合、当初から人事の仕事を志望していたわけではなく、はじめは物流業界で働きたいとだけ思って志望したのだそうです。「物流業界は社会の中で決して華やかではなく、目立つ業種でもないですけれども、人々の生活のいろんなところで役に立っている、

社会の縁の下の力持ちのようなどとも魅力的な仕事で、この仕事だったら充実感を感じながら楽しく働き続けられると思って物流業界を志望しました」とのことです。

## この仕事に就くには

塩田さんは学生時代を振り返ります。「学生時代は福岡大学エクステンションセンターで貿易実務検定を受けていました。貿易系の仕事の勉強は人文学部だとなかなか機会がないので、世の中の物流はどういった仕組みになっているのかをその講座で学びました。」

## 今後の業界の動向

塩田さんによると、福岡市には世界と九州をダイレクトにつなぐ拠点港として発展を遂げる博多港があります。博多港は、神戸港より西では唯一、北米・欧州などの長距離コンテナ航路が就航するとともに、発展著しい東アジアに近接する国際貿易港であり、国際海上コンテナ貨物の取扱量が急増しています。その地に隣接する倉庫を利用されるお客様も近年益々、増えてきています。また、2011年の東日本大震災の影響は物流業界にも及んでいるようで、東京だけに物流拠点を持っていた企業がリスクを分散させるために、比較的地震の少ないといわれる九州にも拠点を置こうとする動きが出てきています。さらに最近では保管型倉庫よりも在庫をあまり持たない倉庫が主流傾向となっており倉庫は荷物の通過点にすぎませんでしたが、企業に何かあった時の在庫を保管するために、ある程度は倉庫内に商品を保管しておかなければならないように変わってきているとのことでした。

## キャリアの展望

現在、塩田さんは人事の仕事に就いて8年目。福岡倉庫の創業者は女性の富永シヅさんという方で塩田さんは入社前からその方に憧れていたそうです。現在女性の役員はいないそうで、総務部初の女性役員を目指しているのだと、塩田さんは生き生きと話されていました。

## 福大生に向けて

最後に塩田さんからアドバイスを頂きました。「これから就職活動をして、いろんな企業に巡り合うと思います。もし志望していない仕事に就いた時でも、新しいチャンスだと前向きに捉えて仕事に取り組めば、自分のやってきた仕事は決して裏切らないですし、どんなに大変な仕事でも、その成果は将来の自分に返ってくると思います。最初は辛くてなかなか出来なかった仕事も、後になるとそんな時もあったと楽しく振り返ることが出来ますから、まずは十年頑張ったら学生の時とは変わっていると思いますよ。」

塩田さん、今回は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

日本調剤株式会社 日本調剤福岡中央薬局

## 医療事務

ドイツ語学科 2009 年卒業生 栗原尚子さん（勤務 5 年目）

取材：山浦愛莉（LG130938）

重松あや（LG130918）

編集：山浦愛莉（LG130938）

2009 年 3 月にドイツ語学科をご卒業されて 5 年間、医療事務として薬局に勤務されている栗原尚子さんにお話を伺ってきました。

### どんな仕事

医療事務は薬剤師業務以外の面で店舗全体のケアをする、薬局の顔となる仕事です。患者さんの処方箋の受付をするだけでなく、OTC と呼ばれる一般用医薬品の販売も行っている薬局も多いため、接客に加えて専門知識も必要になります。今回取り上げるのは 2009 年にドイツ語学科を卒業され、現在は福岡中央薬局に勤務されている栗原尚子さんです。

### 1 日の仕事風景

栗原さんの一日は消耗品の補充や掃除、新聞やお金の準備をなどの開店準備から始まります。そのため開店の 15 分前には出勤し、9 時に開店すると初回質問表・処方箋記載事項の入力、OTC の販売を行います（12 時から 15 時までの間に 1 時間の休憩）。18 時に閉店した後に売上金の確認と 1 日の業務資料の出力を終え退社します。もちろん業務はこれだけではなく、空いた時間には薬品や備品の発注、フロアの OTC のポップやチラシの作成、レセプト業務（健康保険組合などに請求する医療費明細書）などをこなしており、仕事内容は様々です。また、主な業務である処方箋のお預かりに加え、待合への目配りや気配りを欠かすことなく、適宜、患者さんへ待ち時間をご案内し、お茶出しのサービスも行っています。

### 私の役割

3 人の方が医療事務として勤務しているなか、「登録販売者」の資格を唯一取得している

という栗原さん。登録販売者とは改正薬事法の中で定められた医薬品販売の専門家のことで、一般用医薬品のうち第二类医薬品、第三類医薬品の販売が認められた資格です。そのためお客様からの相談に応じなければならない義務も生じ、幅広い知識を持つ必要があります。数年前にこの資格を取得してからは仕事の幅も広がり、薬局のフロアにあるボードに「お薬コラム」を掲載し始めたそうです。作成するにあたり薬の記事を沢山読むため、自分自身の勉強にも繋がります。

また書道習っていた経験を生かして、薬を定期的に届けている老人施設で「書道の会」を開いています。業務時間外のボランティアですが、普段多くの患者さんと接しているで、身体の不自由な部分を理解しながら行えます。今後も薬局内の業務だけにとらわれず、患者さんに多くの「ハッピー」を提供できる活動をやっていきたいと考えているそうです。

### よいところ

同僚とどう関わっていくかも、仕事をする上で大事なことです。そのため他店舗から見ても仲がよく、恵まれた環境で働くことができていることが自慢の一つだと栗原さんは言います。また喜びややりがいを感じる時は用事がなくてもお店にお客さんが訪れてくれたとき。スタッフのことを信頼してくれているのだと思うそうです。

### 大変なところ

「薬局は患者さんも来たくて来るところではないので」と話す栗原さん。長時間病院にいてストレスを感じているお客さんへの対応など、接客業ならではの大変な面もあります。時にはお客さんに怒られることも。最初は慣れないことに傷ついたりしましたが、少しずつでもできるかぎりの改善に務めたと言います。更に医療関係の職業であるため、健康面もより一層気を付けなければいけません。

### この仕事を選んで

「就職活動中は多くの説明会に参加して様々な職種に応募したものの、やりたいことがなかなか見つからないままでした。そのような中、調剤薬局で短期のアルバイトをしていたことがきっかけとなり、本格的に調剤薬局の医療事務になることを目指したのでした。しかしいざ入社すると、個人経営の薬局でのアルバイトと大きな会社での社員とでは大きな違いがあります。人との関わりが増え、大量の仕事をスピーディにこなさなければならず、苦勞することも沢山ありました。」そのように、栗原さんは続けて語っていただきました。

入社から5年経った今、業務を一通りこなせるようになり登録販売者の資格も取得した栗原さんは、次のステップを目指しています。今後の目標はOTCを購入しにくる外国の方の伝えたいことを正しく理解し、親切な接客ができるようになること。薬の名前を言語ごとにまとめた資料を作成し、各国語で「こんにちは」「ありがとう」などの挨拶も覚えていきたいとのことでした。

## この仕事に就くには

栗原さんの場合は大学 4 年生の夏頃に薬局の医療事務として働きたいと思い、秋頃に専門学校に通い始めました。大学に通いながらも、毎週日曜日は 5 時間にも及ぶ集中講義を受け、事務関係の資格を取得したそうです。

医療関係の仕事には資格がいるのではないかと思われるかもしれませんが、実際は資格や経験がなくても働くことができます。日本調剤株式会社では研修制度も整っており、働きながら知識や資格を身につけていく人も少なくありません。やる気を持って積極的に働こうとする姿勢が大事なのです。しかし通信教育などで勉強し、技能認定振興協会の「調剤事務管理士 (R)」の資格を取得することも、就職に有利になる一つの手です。国家資格ではありませんが、全国共通で比較的取得しやすいため学生にも人気となっています。

ただ難点なのは求人数が少ないことです。1 名の求人に対し、50 名ほどの応募が集まることもあります。また、入社試験では面接に加え筆記試験が行われる場合もあります。

## 福大生に向けて

「インターンシップ制度や就職説明会など、福岡大学では就職活動に対する支援が厚いためとことん利用してください。サークルやアルバイトなどでもいいので何かに打ち込み、自分自身に何が合っているのか見極めていくことが大事です。」栗原さんはご自身の体験を振り返りながら、そのように助言してくださいました。

また、「ドイツ語学科に在籍していたことは、違った世界を見ることができてよかった」と栗原さんは言います。「ドイツ語がそこまで得意だったわけではありませんが、海外支社もある会社を受けたりした事もよい経験となった」ということです。

Wahaha スタジオジャパン日本語学校

## 日本語教師

ドイツ語学科 2009年卒業生 原千明さん（勤務3年目）

取材・編集：黒田あゆみ（LG130942）

長谷川実穂（LG130929）

2009年3月にドイツ語学科をご卒業されて5年間、日本語教師として国内外でご活躍中の原千明さんにお話を伺ってきました。

### 企業としての仕事内容

Wahaha スタジオジャパン日本語学校では、主に欧米やアジアから来日した短期・長期滞在中の学生に日本語を教えています。（学生の出身国は、ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリアや台湾などが多いのですが、他にも様々です。）日本語の授業内容としては、短期滞在中の留学生には主に旅行会話や日本人とのコミュニケーションを取るための会話学習を中心に行い、長期滞在中の学生（仕事や家族の関係で既に日本に住んでいる学生）には、ビジネス日本語や日常生活を送るための日本語レッスンを行っています。また、午前や午後のレッスンがない日の空き時間には、日本人に韓国語や英語などの外国語を教える授業も展開しています。Wahaha スタジオジャパンは「誰でもウェルカム」な学校なので、20代前後の学生だけでなく、50代から60代の年配の学生も多く、18歳ぐらいから70代までという幅広い年代の方が日本語を学習しているのだそうです。

### 原さん担当の仕事

原さんが担当している主な仕事は、日本語教師として学生に日本語を教えることですが、教育活動は教室内だけに留まりません。

まずは、「アクティビティ」。学生に学校外の日本を案内する活動です。例えば、福岡市内観光（福岡タワー観覧、大宰府天満宮参拝、ヤフードームでの野球観戦、福岡国際センターでの相撲観戦など）や日本の伝統的な文化体験（陶芸、茶道、書道、華道、着付け体験、和菓子作りなど）を通じて、福岡という街や日本の文化を紹介しています。さらに、より現実的な活動としては、切符の買い方などを実際に学生たち自身に行ってもらおうこと

で、日常生活に必要なことを学んで身につけてもらっています。その際、日本語が分からない学生のために説明用のチラシを用意することも原さんの大事なお仕事です。原さんは、毎回のアクティビティーのために、あらかじめ様々な予約を手配したうえで、当日の引率を行っています。

その他には、ホームページの作成にも原さんは関わっています。全体的なデザインはホームページ制作会社をお願いしているそうですが、ホームページに掲載するための写真や具体的な内容は社内で用意せねばなりません。原さんは、**Wahaha** 日本語学校の印象などに関して学生の声をインタビューして報告書にまとめ、それを制作会社に送って掲載してもらうことでホームページを随時更新しています。(是非 **WAHAHA Studio Japan** のホームページをご覧ください：<http://www.wahahastudiojapan.com/>)

## 一日のスケジュール

原さんの現在の仕事は朝 8 時 45 分からの掃除で始まります。9 時から 9 時 30 分まではメールのチェック。内容はアクティビティーの先生方と打ち合わせや、月に 1 度は開催する本格的な日本料理教室の講師である栄養士さんとの打ち合わせなどです。(ちなみに調理会を行うパーティーでは日本人と留学生と一緒に料理方法を習いながら国際交流を深めます。) 9 時 30 分から途中休憩を挟んで 3 時間ほどレッスンをを行い、13 時から 1 時間は休憩をとり、また 14 時から 17 時 30 分までレッスンを行います。その後 18 時までは、アクティビティーの準備、ホームページの作成、海外とのメールのやり取りなどを行います。

## この仕事を選んだ理由

原さんの場合、小学 4 年生の時に日本語教師としての将来を意識しました。そのきっかけは小学生の時に週 1 回行われた「国際理解」の授業。それは、アメリカやミャンマーなど様々な国の出身の先生たちが小学生にじゃんけん、数字、文字などを教える授業でした。その授業が面白いと感じた原さんは、自分でも将来はこのような仕事がしたいと思うようになったとのことでした。

## この仕事に就くまでの道

原さんには、日本人だからこそ話せるネイティブの日本語を活用したいという思い、海外で日本語教師として働きたいという思いがずっとあったそうです。日本語教師になるために原さんは、福岡大学在学中には高等教育の教員免許を、週末に通っていた専門学校ヒューマンアカデミーでは日本語教育免許を取得されています。大学卒業後は、ヒューマンアカデミーの担任の先生の勧めで **Asahi** 日本語学校に就職し、2 年間、日本語教師として勤められました。その後、海外での勤務を希望して **Asahi** 日本語学校を退社し、1 年間オーストラリアで日本語教師としてご活躍されたそうです。帰国後に原さんは、新たに現在の職場である **Wahaha** スタジオジャパンに勤めはじめられ、そこでの勤務は今年で 3 年目にな



るそうです。

## 学生時代の勉強

大学時代に原さんはドイツ語と教育学を勉強していました。それと同時に、ヒューマンアカデミーで日本の文化・日本語の発音・言語学・社会学などを勉強し、日本語教員免許を取得したそうです。

## この仕事に就く方法

日本語学校で日本語教師として働くには条件が3つあります。1つ目は、大学で日本語教育を専攻もしくは副専攻していること。2つ目は、日本語教師養成コースを420時間以上修了していること。3つ目は、日本語教育検定試験に合格すること。3つのうち1つを満たせば日本語学校の応募条件を満たします。それから学校によって異なりますが、書類選考、面接、自作の教案提出、模擬授業などの結果で採用が決まります。模擬授業が一番の決め手になるので、経験がない方はよく練習しておいたほうが良いとのことでした。

採用前に授業経験がない場合は、採用後にもまず非常勤講師として授業を任せられます。その後、2〜3年の経験を積み常勤講師として働けるようになります。

なお、英語や中国語、韓国語などの外国語ができれば就職にかなり有利だそうです。また、海外で日本語教師として働きたい場合は、欧米より東南アジアの方で需要があるとのことでした。

## この仕事に向いている人

海外に関すること全般が好きな人で、国際交流に興味がある人がこの仕事に向いています。日本語教師としてはメンタリティがタフな人が良く、話すのが好きで、コミュニケーション能力がある人が良いようです。また、トラブルに見舞われても、臨機応変に何でも対応できる人や、面倒見が良い人も向いているそうです。

## 仕事をしていて大変なこと

「毎日大変なだけで、精神的に苦痛を感じたことは全然ないですよ。どのお仕事も楽しいですからね。」原さんはそう語ります。そのうえで、苦勞されたことについてもお話しくださいました。例えば、以前、福大生の着付けレッスンを朝の9時から行われた時には、7時に集合して着物の準備や運搬作業をせねばならず、朝がきつかったとのこと。また、ホームページの制作にあたって、制作会社が決めていた期日に間に合わせるために、作業が24時まで続いたこともあったそうです。

## この仕事の面白さ

国も年代も違う多様な学生が来て、色々な国のことを直接的に聞けるのが仕事の中で一

面白いと原さんは言います。外国の話を聞いて、あらためて「日本ってすごくいいな」と感心する面もあれば、逆に疑念を懐かざるをえない面もあるようです。反対に、学生に日本のことを話すときにも、自分が普通だと思っていたことが外国人にとっては普通ではないと驚かされてしまうこともあります。そのような学生との国際交流によって、お互いに言葉と文化についての理解を深めながら、自国のいいところが再認識できるのだそうです。

また、海外旅行中に自分の学生に会えた時にはとても嬉しかったとのことでした。世界中に友達が増えていることが実感でき、あらためて「人生は一期一会だ」と感じられたそうです。

## 仕事をする上で心がけていること

何よりも「笑顔でいること」が大事です。話しかけやすい先生でいるために、常に心を開いて、オープンな気持ちでいるように心がけています。それは、自分自身がオープンな状態でいないと学生たちが楽しくないと思うからでもあり、また、自分の印象が日本の印象に直接つながると意識しているからです。そのように語る原さんの言葉には、普段の心がけが現れていました。

自分の印象が日本の印象につながるというのは、決して過言ではないように思われます。留学生が日本で一番多くの接点を持って話せたのが原先生だと、原さんがよく言われているのが何よりの証拠でしょう。それは、学生たちが先生のもとで毎日の授業を受け、日本語を勉強しているからにほかなりません。「昨日何したの」、「週末何したの」、「母国で何をしていたの」などと具体的な内容を授業中の会話で聞くため、教師として原さんは学生のことをよく知ることになります。また、それと同時に、自分のことも学生たちによく話すことになります。初めて日本に来た人が懐く日本人の印象には日本語教師の印象がとても大きく影響するので、日本人としてよい印象を彼らに与えられるように原さんは心がけているのです。

## 今後の業界の動向

Asahi 日本語学校が設立された 15 年前まで、福岡に日本語学校は全くありませんでした。同校が、とりわけ欧米系の学生を迎えた福岡初の日本語学校だったそうです。その後、韓国、中国、東南アジアなどアジア系の人が多く通う日本語学校や、特に増加しているネパール人向けの日本語学校も福岡に設立されてきました。原さんが現在勤務されている Wahaha 日本語学校（欧米系）は福岡で 4、5 校目の日本語学校だといわれています。

現在、東北や東京にいた留学生が東日本大震災の関係で南に来る傾向があるそうです。また、日本経済が発達するにつれ、海外では特に東南アジア系の人々が日本との貿易やビジネスのチャンスを狙い、そのチャンスを活かすために日本語を学ぼうとすることが多いため、日本経済の日本語学校に与える影響はさらに大きくなるだろう、と原さんは教えてくださいました。

## 原さん自身のこれからの目標

「日本語教師の仕事に憧れて、今やっとその職に就くことができましたし、海外の経験もできたのですから、次は日本語学校を自分の手で作りあげていきたいなと思っています」と原さんは今後の目標を語ってくださいました。

原さんは Wahaha スタジオジャパンに勤務している他の先生に比べると、一番年下です。Asahi 日本語学校やオーストラリアでの勤務時も、一番年下でした。ベテランは 20 年、30 年もの勤務経験があるため、将来的に自分で日本語学校を設立して、そのような人たちをまとめるとなると、まずは相当の英語力と日本語力、言語の知識が必要となります。そのために、今後も着実にスキルアップしていかねばなりません。

いま原さんが特にスキルアップするように心がけているのは英語力だそうです。たしかに日本語を日本語で教えるために英語は必要ありませんし、学生との授業中のやり取りや日常会話に関しては現在も英会話で困ることもありません。しかし、会社運営のためには、ビジネスとして正式に海外の企業、大学、旅行会社、エイジェンシーと交渉せねばならず、そのために必要な文章力は英語でも日本語でも身につけるのが難しいのだそうです。

さらに、社員をまとめられるほどの日本語教師としての経験や学生の評判も大切です。そこで何よりも必要なのはコミュニケーション能力だと原さんは断言します。単に「問題を解きなさい」と指示しても学生にとっては面白くなく飽きてしまうこともあるので、それをいかに楽しく、いかに日常に密着した形で実用的に教えられるかが教師の力量にかかっているのだということです。実際に授業を受けて話せるようになると、学生からの信頼も高まり、学生がどんどん積極的に学ぶようになるのだそうです。

## 後輩へのアドバイス

「日本語教師になりたかったら、国際交流のイベントに積極的に参加するといいと思います。福大でも留学生の交流イベントはあると思いますし、他にも『フクオカ・ナウ』など月刊英語情報誌には色々国際交流のイベントがたくさん書いてあります。そのような機会を積極的に利用して、イベントにも参加したら、モチベーションが上がりますよ。」

有難いことに原さんは大学生である私たちにも今できることを御助言くださいました。国際交流のイベントやパーティーなどに参加すれば、留学生たちの様子や、留学生たちの勉強についても知ることができます。いつか日本語を学ぶ留学生に日本語を教える立場になったら、そのような留学生たちの姿こそが日本語を話すビギナーの人の話し方だと気付けるはずなのだそうです。

原さん、このたびは貴重なお話をお聞かせいただき、どうも有難うございました。

ベトナム航空

## 客室乗務員

ドイツ語学科 2009 年卒業生（勤務 2 年半）

取材：重松あや（LG130918）

山浦愛莉（LG130938）

編集：重松あや（LG130918）

2009年3月にドイツ語学科をご卒業されて、まず2年半ベトナム航空の客室乗務員を務め、その後2014年5月からは非常勤講師として中学校に勤務されている先輩にお話を伺ってきました。前半は客室乗務員時代のお話です。

### どんな仕事

今回お話を伺った先輩は現在、福岡県の中学校に非常勤講師として勤められています。なお、先輩が現職に就かれたのは2014年5月からのことで、その前は約2年半、ベトナム航空で客室乗務員として働いていました。客室乗務員を経て現在の職に就いた先輩ですが、当時の経験が役立つことが多いといいます。そこで、まず客室乗務員のお仕事について聞いていきましょう。

### 私の役割

客室乗務員時代は主に、機内サービスや機内清掃、保安業務や緊急時対応を行っていたという先輩。機内サービスとは、搭乗及び各種案内、機内食の配布、回収などを指します。なお、入社後から始まる訓練はもちろん全て英語で、日本人は30人ほどだったそうです。

### ある日の仕事風景

毎回ピックアップの時間はばらばらで、フライトが終わると自由時間が与えられます。この自由時間がかなり長いため、日本に着陸した場合には友人に会ったり、海外の場合は、観光をしたりで時間を過ごしていたそうです。ちなみに、目的地が日本の場合は夜のフライトが多く、東南アジアの場合は朝、昼のフライトが多くなります。

## **やりがいを感じること**

お客様に笑顔で「ありがとう」と言われることがこの上ない喜びだったという先輩。ヨーロッパのお客様が多かったため、ドイツ語を話す機会もよくあったそうです。きっと、ドイツ語で „Danke schön!“ と何度も感謝されたことでしょう。

## **大変なところ**

日本との文化の違いにとまどうことがよくあったという先輩。特にベトナムなどの発展途上国では治安が悪い地域が多いので、常に気を配って生活していたとのこと。

## **心がけていること**

「一番に気を使うのが健康管理。そのうえで、どんな時にも笑顔でいることを忘れないようにしています。自分がお客様にどう見えているかを想像し、気を抜かないようにすることが大事です。」そのように語る先輩の姿勢は、客室乗務員をご退職されてからも変わることがないように見えました。

## **この仕事を選んだ理由**

客室乗務員になりたいという長いあいだ夢見てきた想いを現実化させた先輩ですが、航空会社への就職がしばらく決まらなかったため、就職活動中に一度は諦めかけたそうです。しかし、その後、日本だけでなく海外の航空会社にも目を向けて、再び夢を追いかけたことでベトナム航空での勤務が決定したのだということでした。

## 中学校の非常勤講師

ドイツ語学科 2009 年卒業生

聞き手：山浦愛莉 (LG130938)

重松あや (LG130918)

編集：重松あや (LG130918)

2009年3月にドイツ語学科をご卒業されて、まず2年半ベトナム航空の客室乗務員を務め、その後2014年5月からは非常勤講師として中学校に勤務されている先輩にお話を伺ってきました。後半は現職である中学校での非常勤講師についてのお話です。

### どんな仕事

小学校、中学校、高校、大学や専門学校では、常勤の教師や教授の他に、非常勤講師と呼ばれる職員が働いています。非常勤講師とは科目ごとに時限契約で働く講師のことです。今回お話を伺った先輩は現在、福岡県内の中学校に非常勤講師として勤められています。先輩が現職に就かれたのは2014年5月からで、その前は約2年半、ベトナム航空で客室乗務員として働いていました。客室乗務員を経て現在の職に就いた先輩ですが、当時の経験が役立つことが多いと言います。続けて後半では、中学校でのお仕事について聞いていきましょう。

### 私の役割

中学校の非常勤講師として家庭科の授業を担当している先輩はいま、生活、保育、調理などについて教えています。

### ある日の仕事風景

8時30分頃から授業が始まるため、それまでに授業の準備をすることから先輩の一日は始まります。午前の授業の後は、12時頃に昼食をとり、午後の授業が続きます。全ての授業を終えて帰宅してからも、当日の授業を振り返ったうえで今後の実習企画を立てながら、次の授業に備えます。

### やりがいを感じること

子供たちはとても素直なので、自分が頑張った分だけ生徒の態度にその成果が表れます。

そこに先輩はやりがいを感じるそうです。例えば、細かく練れば練るほど授業中の企画に生徒たちは熱心に取り組むようになり、楽しく思ってもらえるようだ先輩はいいます。また、生徒たちは前職の客室乗務員時代の話に関心を持って色々と尋ねてくるそうですが、前職も含め自分がこれまでに行ってきたことやいま教えていることが生徒の将来に実際につながっているのだということを、以前、生徒から手紙をもらった時に先輩はありありと実感されたそうです。

## 大変なところ

なによりも授業のための準備が大変で、その準備時間がいくらあっても足りないそうです。生徒たちが退屈しないようにバラエティに富んだ内容に仕上げるために、時には2時間睡眠になることもあるといいます。

## 心がけていること

「なによりも健康管理に気を使っています」という先輩の姿勢は、前職の客室乗務員時代から変わることがないようです。また、現職の中学校教師としては、生徒が何か大変なことをしてしまったとしても、すぐに声を荒げないように心がけているのだそうです。そのような心掛けが自然にできるのも、先輩が、現在の自分の仕事を「させてもらっている」のだと自覚し、常に感謝の気持ちを忘れないからにほかなりません。

## この仕事を選んだ理由

以前から教育学に興味があったため現職に就くことを希望されたという先輩。先輩は、福岡大学をご卒業された後も、あらためて通信教育制度を利用して教職科目を履修できる通信制の大学に通いながら、お仕事を続けられています。なお先輩は、今年度、現在学んでいる通信制大学で必要な免許を取り終え、教職課程を正式に修了するご予定だそうです。

## これからの目標

今後の目標としては、特別支援学級のクラスの担当を受け持つことだと語る先輩。「明確な時期の目処はたっていないものの必ず実現させたい」と口にする先輩の気持ちが、お話を伺いながら、ひしひしと伝わってきました。

先輩、このたびはお忙しいなか貴重なお話を聞かせていただき、有難うございます。